

令和6年度 1学年 社会科<歴史分野> 年間指導計画

月	単元名・項目名	時数	○主な学習内容(何を学ぶか) ●学習方法(どのように学ぶか)	評価規準		
				主体的に学習に取り組む態度	思考・判断・表現	知識・技能
4	第1章 歴史へのとびら	5	○年代の表し方や時代区分の意味や意義についての基本的な内容を理解する。 ●資料から歴史に関わる情報を読み取ったり、年表などにまとめたりするなどの技能を身に付ける。	私たちと歴史について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。 自らが生活する地域や受け継がれてきた伝統や文化への関心をもって、身近な地域の歴史について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。	時期や年代、推移、現在の私たちとのつながりなどに着目して、小学校での学習を踏まえて歴史上の人物や文化財、出来事などから適切なものを取り上げ、時代区分との関わりなどについて考察し表現している。 比較や関連、時代的な背景や地域的な環境、歴史と私たちとのつながりなどに着目して、地域に残る文化財や諸資料を活用して、身近な地域の歴史的な特徴を多面的・多角的に考察し、表現している。	年代の表し方や時代区分の意味や意義についての基本的な内容を理解している。 資料から歴史に関わる情報を読み取ったり、年表などにまとめたりするなどの技能を身に付けている。 具体的な事柄との関わりの中で、地域の歴史について調べたり、収集した情報を年表などにまとめたりするなどの技能を身に付けている。
5 6 7 8	第2章 古代までの日本 第1節 世界の古代文明と宗教のおこり 第2節 日本列島の誕生と大陸との交流	8	○世界の古代文明や宗教のおこりを基に、世界の各地で文明が築かれたことを理解する。 ●日本列島における農耕の広まりと生活の変化や当時の人々の信仰、大和朝廷(大和政権)による統一の様子と東アジアとの関わりなどを基に、東アジアの文明の影響を受けながら我が国で国家が形成されていったことを理解する。	世界の古代文明や宗教のおこりを基に、世界の各地で文明が築かれたことを理解している。 古代までの日本について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。	古代文明や宗教が起こった場所や環境、農耕の広まりや生産技術の発展、東アジアとの接触や交流と政治や文化の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、世界の古代文明や宗教のおこり、日本列島における国家形成、律令国家の形成、古代の文化と東アジアとの関わりについて、古代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。	世界の古代文明や宗教のおこりを基に、世界の各地で文明が築かれたことを理解している。 日本列島における農耕の広まりと生活の変化や当時の人々の信仰、大和朝廷(大和政権)による統一の様子と東アジアとの関わりなどを基に、東アジアの文明の影響を受けながら我が国で国家が形成されていったことを理解している。
9* 10 11 12	第3節 古代国家の歩みと東アジア世界 第3章 中世の日本 第1節 武士の政権の成立	8	○7～8世紀の世界では、東西に大帝國が成立し、シルクロードを通じた国際交流が盛んになったことを理解する。さらに日本では、大陸の文物や制度を積極的に取り入れながら、国家のしくみが整えられたことを理解する。 ●掛け地図や地理の既習事項との関連性を踏まえて学習させ、東アジアの位置関係を配慮しながら指導していく。 ○天皇や貴族の政治が展開され、古代国家が発展していったことを理解する。さらに国際的な要素をもった文化が栄え、後に文化の国風化が進んだことを理解する。 ●生活習慣や仮名文字など現代にまで残る伝統的な日本文化との関連性を踏まえ、身近な実物資料から導入に持って行き、現代の生活にも大きな影響をあたえている事を気づかせる。	律令国家の形成、古代の文化と東アジアとの関わりについて、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。 中世の日本について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。	東アジアとの接触や交流と政治や文化の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、律令国家の形成、古代の文化と東アジアとの関わりについて、古代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。 武士の政治への進出と展開、東アジアにおける交流、農業や商工業の発達などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、武家政治の成立とユーラシアの交流、武家政治の展開と東アジアの動き、民衆の成長と新たな文化の形成について、中世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。 中世の日本を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現している。	律令国家の確立に至るまでの過程、摂関政治などを基に、東アジアの文物や制度を積極的に取り入れながら国家の仕組みが整えられ、その後、天皇や貴族による政治が展開したことを理解している。 仏教の伝来とその影響、仮名文字の成立などを基に、国際的な要素をもった文化が栄え、それらを基礎としながら文化の国風化が進んだことを理解している。 鎌倉幕府の成立、元寇などを基に、武士が台頭して主従の結び付きや武力を背景とした武家政権が成立し、その支配が広まったこと、元寇がユーラシアの変化の中で起こったことを理解している。
1 2 3	第2節 ユーラシアの動きと武士の政治の展開	14	○13世紀ごろの世界では、ユーラシア大陸をまたぐ広大なモンゴル帝国(元)が成立し、東西の貿易や文化交流が盛んになったことを理解する。更に日本では、武士が台頭して鎌倉幕府が成立し、その支配がしだいに全国に広まったことを理解するとともに、武士や民衆の活力を背景に生まれた新たな社会や文化の特色について考える。 ●掛け地図や地理の既習事項との関連性を踏まえて学習させ、映像やレプリカなどの実物教育を導入として体験学習をおおくり入れる。	中世の日本について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。	武士の政治への進出と展開、東アジアにおける交流、農業や商工業の発達などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、武家政治の成立とユーラシアの交流、武家政治の展開と東アジアの動き、民衆の成長と新たな文化の形成について、中世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。 中世の日本を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現している。	南北朝の争乱と室町幕府、日明貿易、琉球の国際的な役割などを基に、武家政治の展開とともに、東アジア世界との密接な関わりが見られたことを理解している。 農業など諸産業の発達、畿内を中心とした都市や農村における自治的な仕組みの成立、武士や民衆などの多様な文化の形成、応仁の乱後の社会的な変動などを基に、民衆の成長を背景とした社会や文化が生まれたことを理解している。
評価方法				●授業観察(発言・発表など) ●提出物 ●ワークシート ●成果物	●授業観察(発言・発表など) ●定期考査 ●提出物 ●ワークシート ●成果物	●授業観察(発言・発表など) ●定期考査 ●提出物 ●ワークシート ●成果物
比率				1/3(%)	1/3(%)	1/3(%)

令和6年度 1学年 社会科<地理分野> 年間指導計画

月	単元名・項目名	時数	○主な学習内容(何を学ぶか) ●学習方法(どのように学ぶか)	評価規準		
				主体的に学習に取り組む態度	思考・判断・表現	知識・技能
4	第1部 世界と日本の地域構成 第1章 世界の姿	5	○地球上の位置の表し方や球面上の位置関係をとらえる技能や知識を身に付けさせる。 ●地球儀や世界地図を活用し、世界の地域区分や国々の名称と位置などをもとにして、世界の地域構成をとらえ、おおまかな世界地図をかけるようにする。	世界の地域構成について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。	世界の地域構成の特色を、大陸と海洋の分布や主な国の位置、緯度や経度などに着目して多面的・多角的に考察し、表現している。	緯度と経度、大陸と海洋の分布、主な国々の名称と位置などを基に、世界の地域構成を大観し理解している。
	第2章 日本の姿	5	○世界の中での日本の位置や広がりの特徴をとらえる技能や知識を身に付けさせる。 ●地球儀や地図を活用し、わが国の国土の位置、世界各地との時差、領域の特色と変化、問題、地域区分等を取りあげる。	日本の地域構成について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。	日本の地域構成の特色を、周辺の海洋の広がりや国土を構成する島々の位置などに着目して多面的・多角的に考察し、表現している。	我が国の国土の位置、世界各地との時差、領域の範囲や変化とその特色などを基に、日本の地域構成を大観し理解している。
6	第2部 世界のさまざまな地域 第1章 人々の生活と環境	10	○世界の人々の生活や環境の多様性を理解させる。 ●世界各地における人々の生活のようすとその変容について、自然および社会的条件と関連づけて考察させる。	世界各地の人々の生活と環境について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。	世界各地における人々の生活の特色やその変容の理由を、その生活が営まれる場所の自然及び社会的条件などに着目して多面的・多角的に考察し、表現している。	人々の生活は、その生活が営まれる場所の自然及び社会的条件から影響を受けたり、その場所の自然及び社会的条件に影響を与えたりすることを理解している。 世界各地における人々の生活やその変容を基に、世界の人々の生活や環境の多様性を理解している。
	第2章 世界の諸地域	35	○それぞれの州の地域的特色を理解させる。 ●世界の諸地域について、各州に暮らす人々の生活のようすを的確に把握できる地理的事象を取りあげ、それをもとにした主題(テーマ)を設定する。	世界の諸地域について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。	アジア州・ヨーロッパ州・アフリカ州・北アメリカ州・南アメリカ州・オセアニア州の各州において、地域で見られる地球的課題の要因や影響を、州という地域の広がりや地域内の結び付きなどに着目して、それらの地域的特色と関連付けて多面的・多角的に考察し、表現している。	世界各地で顕在化している地球的課題は、それが見られる地域の地域的特色の影響を受けて、現れ方が異なることを理解している。 アジア州・ヨーロッパ州・アフリカ州・北アメリカ州・南アメリカ州・オセアニア州の各州に暮らす人々の生活を基に、各州の地域的特色を大観し理解している。
	1節アジア州					
	2節ヨーロッパ州					
	3節アフリカ州					
	4節北アメリカ州					
5節南アメリカ州 6節オセアニア州						
1	第3部 日本のさまざまな地域 第1章 身近な地域の調査	5	○身近な地域における諸事象を取り上げ、観察や調査などの活動を行い、地理的なまとめ方や発表の方法の基礎を身に付けさせる。 ●授業から基礎的な知識を得て、資料から地理情報を選別・抽出し、活用できるように加工・処理する。そして発表する。	地域調査の手法について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。	地域調査において、対象となる場所の特徴などに着目して、適切な主題や調査、まとめとなるように、調査の手法やその結果を多面的・多角的に考察し、表現している。	観察や野外調査、文献調査を行う際の視点や方法、地理的なまとめ方の基礎を理解している。 地形図や主題図の読図、目的や用途に適した地図の作成などの地理的技能を身に付けている。
2	第2章 日本の地域的特色	10	○世界的視野や日本全体の視野から見た日本の地域的特色を取り上げ、我が国の国土の特色を様々な面から大観する。 ●授業から基礎的な知識を得て、資料から地理情報を選別・抽出し、活用できるように加工・処理する。	日本の地域的特色と地域区分について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。 世界的視野からみた日本の地域的特色や、日本全体の視野からみたおおまかな国内の地域差に関心を持ち、それらを意欲的に追究し、捉えようとする。	「自然環境」「人口」「資源・エネルギーと産業」「交通・通信」の項目について、それぞれの地域区分に着目して、多面的・多角的に考察し、表現している。 日本の地域的特色を、「自然環境」「人口」「資源・エネルギーと産業」「交通・通信」の項目に基づく地域区分などに着目して、それらを関連付けて多面的・多角的に考察し、表現している。	「自然環境」「人口」「資源・エネルギーと産業」「交通・通信」の項目に基づく地域区分を踏まえ、我が国の国土の特色を大観し理解している。 ①日本や国内地域に関する各種の主題図や資料を基に、地域区分をする技能を身に付けている。
評価方法			●授業観察(発言・発表など) ●提出物 ●ワークシート ●成果物	●授業観察(発言・発表など) ●定期考査 ●提出物 ●ワークシート ●成果物	●授業観察(発言・発表など) ●定期考査 ●提出物 ●ワークシート ●成果物	
比率			1/3(%)	1/3(%)	1/3(%)	

令和6年度 2学年 社会科<歴史分野> 年間指導計画

月	単元名・項目名	時数	○主な学習内容(何を学ぶか) ●学習方法(どのように学ぶか)	評価規準		
				主体的に学習に取り組む態度	思考・判断・表現	知識・技能
4 5 6 7 8 9	第4章 近世の日本 1 ヨーロッパ人との 出会いと全国統一 2 江戸幕府の成立と 対外政策 3 産業の発達と幕府 政治の動き	21	○戦国の動乱、ヨーロッパ人來航の背景とその影響、織田・豊臣による統一事業と、対外関係、武将や豪商などの生活文化の展開などを通して、近世社会の基礎がつくられていったことを理解させる。 ●授業から知識を得るとともに、資料からその時代性を読み取り、自分の言葉で簡潔に説明・発表させる。	近世社会の成立とその後の社会の変化や政治の展開に対する関心を高め、意欲的に追究している。武士や豪商の文化、町人文化や各地方の生活文化に対する関心を高め、今日に残る文化的遺産を尊重している。政治・経済・外交・文化などの面で活躍した近世の人物に対する関心を高め、その生涯や業績を調べている。	近世社会の成立とその後の社会の変化や政治の展開から課題を見だし、世界の動きと時代の特色とを関連させて多面的・多角的に考察し、公正に判断している。産業・交通の著しい発達と政治や文化の動きとの関連を、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	近世社会の成立とその後の社会の変化や政治の展開を、世界の歴史を背景に理解し、その知識を身に付けている。近世の日本の動きを政治・経済・外交・文化などの項目に分けて、情報を適切に選択して図表や年表などにまとめている。
10 11 12 1 2 3	第5章 開国と近代日本の歩み 1 欧米における近代 化の進展 2 欧米の進出と日本 の開国 3 明治維新	20	○開国とその影響、富国強兵・殖産興業政策、文明開化などを通して政府の特色を考えさせ、明治維新によって近代国家の基礎が整えられて、人々の生活が変化したことを理解させる。 ●授業から知識を得るとともに、資料からその時代性を読み取り、自分の言葉で簡潔に説明・発表させる。	近代日本が形成されていく過程に関心を高め、欧米諸国とのかわりに留意しながら、意欲的に追究している。	近代日本が形成されていく過程を、国際情勢や国内の動きから多面的・多角的に考察し、公正に判断して適切に表現している。	開国から明治維新を経て近代国家を形成していく過程を、欧米諸国の歴史を背景に理解し、その知識を身に付けている。図版、史料、年表、歴史地図などの近代に関する様々な資料を活用し、追究した結果を読み取ったりまとめたりしている。
評価方法				●授業観察(発言・発表など) ●提出物 ●ワークシート ●成果物	●授業観察(発言・発表など) ●定期考査 ●提出物 ●ワークシート ●成果物	●授業観察(発言・発表など) ●定期考査 ●提出物 ●ワークシート ●成果物
比率				1/3 (%)	1/3 (%)	1/3 (%)

令和6年度 2学年 社会科<地理分野> 年間指導計画

月	単元名・項目名	時数	○主な学習内容(何を学ぶか) ●学習方法(どのように学ぶか)	評価規準		
				主体的に学習に取り組む態度	思考・判断・表現	知識・技能
4 5 6 7 8	《地理的分野》 第2章 世界と比べた 日本の地域的特色	14	○世界的視野や日本全体の視野から見た日本の地域的特色を取り上げ、我が国の国土の特色を様々な面から大観する。 ●授業から基礎的な知識を得て、資料から地理情報を選別・抽出し、活用できるように加工・処理する。	世界的視野からみた日本の地域的特色や、日本全体の視野からみたおおまかな国内の地域差に関心をもち、それらを意欲的に追究し、捉えようとする。	世界と比べた日本の地域的特色を、「自然環境」「人口」「資源・エネルギーと産業」「地域間の結びつき」の観点をもとに多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	世界と比べた日本の地域的特色について、自然環境・人口・資源・エネルギーと産業・地域間の結びつきを理解し、その知識を身に付けている。多種の資料から、有用な情報を適切に選択し、読み取り、図表にまとめたりすることができる。
9 10 11 12	第3章 日本の諸地域	31	○身近な地域における諸事象を取り上げ、観察や調査などの活動を行い、地理的なまとめ方や発表の方法の基礎を身に付けさせる。 ●授業から基礎的な知識を得て、資料から地理情報を選別・抽出し、活用できるように加工・処理する。そして発表する。	日本の諸地域の地域的特色に対する関心をもち、それを意欲的に追究し、捉えようとする。	日本の諸地域の地域的特色を、七つの視点を中核とした考察の仕方をもとに多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現することができる。	日本の諸地域について、七つの視点を中核とした考察の技能を身に付け、地域的特色を理解している。
1 2 3	第4章 身近な地域の調査	5	○身近な地域における諸事象を取り上げ、観察や調査などの活動を行い、地理的なまとめ方や発表の方法の基礎を身に付けさせる。 ●授業から基礎的な知識を得て、資料から地理情報を選別・抽出し、活用できるように加工・処理する。そして発表する。	身近な地域の特徴や課題を追究するとともに、課題の解決策を意欲的に考えようとする。	身近な地域の地域的特色や課題を捉えるために適切な地理的事象を取りあげ、それらを多面的・多角的に調査し考察する。また、調査結果も分かりやすくまとめ、表現する。	身近な地域の特徴を理解するとともに、調査の視点や方法を身に付ける。地図や景観写真、統計資料などを的確に読み取り、活用する。
評価方法				●授業観察(発言・発表など) ●提出物 ●ワークシート ●成果物	●授業観察(発言・発表など) ●定期考査 ●提出物 ●ワークシート ●成果物	●授業観察(発言・発表など) ●定期考査 ●提出物 ●ワークシート ●成果物
比率				1/3(%)	1/3(%)	1/3(%)

令和6年度 3学年 社会科<歴史分野> 年間指導計画

月	単元名・項目名	時数	○主な学習内容(何を学ぶか) ●学習方法(どのように学ぶか)	評価規準		
				主体的に学習に取り組む態度	思考・判断・表現	知識・技能
4 5	第5章 開国と近代日本の 歩み	70	○欧米諸国における市民革命や産業革命、アジア諸国の動きなどを通して、欧米諸国が近代社会を成立させてアジア進出したことを理解させる。	・近代日本が形成されていく過程に関心を高め、欧米諸国とのかかわりに留意しながら、意欲的に追究している。	・近代日本が形成されていく過程を、国際情勢や国内の動きから多面的・多角的に考察し、公正に判断して適切に表現している。	・開国から明治維新を経て近代国家を形成していく過程を、欧米諸国の歴史を背景に理解し、その知識を身に付けている。
6 7	第6章 二度の世界大戦と 日本 第7章 現代の日本と私たち		また、第二次世界大戦後の諸改革の特色を考えさせ、世界の動きの中で新しい日本の建設が進められたことを理解させる。 ●授業から知識を得るとともに、資料からその時代性を読み取り、自分でまとめ、説明・発表させる。	・二度の世界大戦について関心を持ち、なぜこのような戦争を引き起こしてしまったのかについて、追究する態度を身に付けている。 ・現代の歴史的事象に対する関心を高め、意欲的に追究して現代の特色を捉えようとしている。	・日本の政治・経済・外交の動きを世界の動きと関連させながら考え、当時の日本のとるべき道を判断し、自分の意見を述べている。	・二度の世界大戦のころの日本の政治・経済・社会・文化の動きについて理解し、知識を身に付けている。 ・世界の動きの中で新しい日本の建設が進められたことを理解し、その知識を身につけている。 ・写真や日記、記録などの資料を活用し、当時の国民の生活の様子を読み取っている。
	評価方法			●授業観察（発言・発表など） ●提出物 ●ワークシート ●成果物	●授業観察（発言・発表など） ●定期考査 ●提出物 ●ワークシート ●成果物	●授業観察（発言・発表など） ●定期考査 ●提出物 ●ワークシート ●成果物
	比率			1 / 3 %	1 / 3 %	1 / 3 %

令和6年度 3学年 社会科<公民分野> 年間指導計画

月	単元名・項目名	時数	○主な学習内容(何を学ぶか) ●学習方法(どのように学ぶか)	評価規準		
				主体的に学習に取り組む態度	思考・判断・表現	知識・技能
4 5	第1章 現代社会と私たち 1節 現代社会の特色と私たち 2節 私たちの生活と文化 3節 現代社会の見方考え方	6	○現代社会の特色としてグローバル化、情報化、少子高齢化が見られ、それらが政治、経済、国際関係に影響を与えていること、また、現代社会における文化の意義や影響について理解させる。 ●さまざまな資料から、現代社会の特色や、現代社会における文化の意義や影響について読み取らせ、表現させる。	現代日本の特色や日本の伝統や文化に対する興味・関心を高め、それらが社会生活にどのような影響を与えているか、また、自分たちはその中でどのように生きていくべきかなどについて考えようとしている。	現代日本の特色や現代社会における文化の意義や影響、文化の継承と創造の意義について多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	現代社会を捉える見方や考え方の基礎として、対立と合意、効率と公正などの見方や考え方があることに気づき、それらを理解している。
6 7	第2章 個人の尊重と日本国憲法 1節 人権と日本国憲法 2節 人権と共生社会 3節 これからの人権保障	18	○日本国憲法の基本原理について、具体的な生活との関わりを通して理解させるとともに、自由・権利と責任・義務の関係が社会生活の基本となっていることに気づかせる。 ●日本国憲法の条文をはじめとするさまざまな資料に親しませるとともに、資料を適切に収集・選択させ、的確に読み取らせる。さらに具体的な事例を通して多面的・多角的に考察させ、その過程や結果を適切に表現させる。	人間の尊重の考え方と法に対する関心を高め、それらを意欲的に学習し、社会の形成者としての立場から民主的な社会生活について考えようとしている。	日本の政治が日本国憲法に基づいて行われていることの意義について、具体的な事例から課題を発見して様々な視点から考察し、その過程や結果を適切に表現している。	個人の尊重の考え方、社会生活における法の意義と法に基づく政治の重要性、日本国憲法の基本原理、天皇の地位と国事に関する行為について理解し、その知識を身に付けている。
8 9 10	第3章 現代の民主政治と社会 1節 現代の民主政治 2節 国の政治の仕組み 3節 地方自治と私たち	23	○議会制民主主義の意義や、国会を中心とする国政のあらまし、地方自治の考え方について理解させる。 ●新聞記事や統計資料など、日本の政治に関する資料を適切に収集・選択させ、現実の政治の動きを多面的・多角的に捉えさせる。	政治に関する様々な話題や課題について、対立と合意、効率と公正などの見方や考え方を活用して多面的・多角的に考察するとともに、主権者としての政治参加のあり方について考えている。	政治に関する様々な話題や課題について、対立と合意、効率と公正などの見方や考え方を活用して多面的・多角的に考察するとともに、主権者としての政治参加のあり方について考えている。	地方自治の基本的な考え方、地方公共団体の政治の仕組み、国会を中心とする我が国の民主政治の仕組みのあらまし、政党の役割、多数決の原理とその運用の在り方、法に基づく公正な裁判の保障について理解し、その知識を身に付けている。
11 12 1 2 3	第4章 私たちの暮らしと経済 1節 消費生活と市場経済 2節 生産と労働 3節 市場経済の仕組みと金融 4節 財政と国民の福祉 5節 これからの経済と社会 第5章 地球社会と私たち 1節 国際社会の仕組み 2節 さまざまな国際問題 3節 これからの地域社会と日本	23 計 70	○資源からどの財やサービスを生産するか価格を考慮して選択するという、市場経済の基本的な考え方を理解させ、現代の生産や金融などの仕組みや働き、企業の役割と責任について考えさせる。さらに政府が果たしている経済的な役割に気づかせるとともに、財源の確保と配分という観点から財政の在り方について考えさせる。また、SDGsの取り組みについても考察させる。 ●統計資料や模式図、新聞記事などのさまざまな資料を収集・選択させたり、読み取らせたり、その結果を分かりやすくまとめて表現させたりする。	身近な経済的事象から、企業の生産活動、金融の働き、国や地方公共団体の経済的な役割などについて関心を持ち、経済に関する諸課題について意欲的に追究しようとしている。	様々な経済的事象や現代の日本経済の諸課題について、消費者や生産者、労働者、政府、納税者などの立場から多面的・多角的に考察し、自分の考えを分かりやすく表現している。	身近な事例をもとに、消費や労働、生産と金融の仕組みや働きについて理解するとともに、市場経済の基本的な考え方を身に付け、その考え方を活用して経済的事象を捉えている
	評価方法			●授業観察（発言・発表など） ●提出物 ●ワークシート ●成果物	●授業観察（発言・発表など） ●定期考査 ●提出物 ●ワークシート ●成果物	●授業観察（発言・発表など） ●定期考査 ●提出物 ●ワークシート ●成果物
	比率			1 / 3 %	1 / 3 %	1 / 3 %